

平成25年度 千葉県水産総合研究センターにおける試験研究課題に対する意見交換会 外部専門家の意見概要

(1) キンメダイの資源量推定に基づく管理方策の検討手法の構築（事前検討課題）

日野顧問

- ・ 加入や産卵の状況は分かっていないので、本課題の範囲ではないが、仮に卵や仔稚魚の採集をすれば明らかになることが出てくると思われる。
- ・ 研究期間が短いという点で不安はあるが、資源学的方法論としては適正であるということなので、進めていただきたい。

田中教授

- ・ 全体としては大丈夫。東京都が同様な方法で資源評価を行っているので、千葉県でもこのやり方でできる。
- ・ 過去のデータをどこまでさか上って使えるかがポイントになる。年齢情報（耳石による年齢査定結果）のように直近のデータしかないものもあるが、銘柄別漁獲量、CPUEなどのデータがある程度さか上れるので、解析はできるだろう。
- ・ 銚子の漁場から勝浦の漁場に魚は移動していると思われる。漁場間の移動を加味した計算手法はあるので、解析を行うことは可能である。
- ・ どちらかの漁場の資源量が極端に小さいと大きい方からの魚の移動があった場合、小さい方の資源量が大きく変わるので、銚子沖と勝浦沖の資源量の差が気になるところである。

川崎部長

- ・ 銚子ー勝浦のような漁場間で魚の移動があるとなれば、個々の漁場ごとの解析に影響があると思われる。

(2) 貧酸素水塊が東京湾沿岸浅海域の底生生物に与える影響の解明(中間検討課題)

日野顧問

- ・泥の酸素消費量の測り方について、底泥の表面と水の酸素の交換量が意味を持つ数値なので、現状の方法（コア採泥を行い、コア内の海水を飽和海水に入れ換えてその DO の変化を測定）では解釈が少し変わってくる。また酸素消費に係わる可能性がある浮泥を除いて測っていることになるので、結果が変わってくる。「良い方法は何か」というのは難しいが、考察時には留意して欲しい。
- ・ORP の基準電極に何を使っているか確認し、データの補正が必要。基準電極は時代によって変わってきたので過去のデータとの比較ができなくなる。原理的には水素電極で測るデータが正しいが、非現実的なので他の電極で測って補正するのが現状。
- ・参考意見であるが、漁場環境改善手法を提言する際には流動環境を考慮することになるが、来遊する汚濁物質も要素になる。
- ・調査の指標として、酸素消費に係わり、かつ簡便な方法でわかる項目も取り込んでいることがよい。計画にある含水率は、調べるのに時間がかかるが充分な方法。酸素を消費する有機物の量が直接分かるという点で強熱減量という方法もある。
- ・全体として精緻なところまで踏み込んだ良い研究である。研究項目が多く、結果の解析からどの指標が役に立つか見えてくると思われる。今後他の海域で研究する際に有効な指標は何かがわかるだろう。

田中教授

(質問のみ)

川崎部長

- ・貧酸素水塊分布予測システムの改良によりメッシュを細かくすると、ノイズも増えるので精度が現状より上がると一概には言えない。
- ・精度を上げたことによりどの程度良くなったかをきちんと検証する必要がある。